

【組合概要】

成田市資源回収協同組合は、空港開港に伴う増大する市当局のゴミ対策に協力する形で昭和58年6月に成田市の再生資源回収業者8名で設立された。

成田市は、人口は約12万人。成田国際空港の玄関口と成田山新勝寺の門前町としてにぎわっている。市ではゴミ減量、資源の再利用等を目指して成田市リサイクルプラザを運営している。組合は、この関連事業を受託している。

リサイクルプラザは、平成10年総工費21億8千万、敷地面積7800平米、粗大ごみ処理施設棟、不用品再生施設棟、貯留棟からなり、再利用できる資源ごみの処理、研修会開催などの啓発活動、家具類や自転車などを再生し、市民に安価で提供する事業も行っている。

組合では、粗大ごみ処理施設棟でスチール缶プレス、アルミ缶プレス、ビン等の選別作業等を行っている。さらに、成田市内のリサイクル回収事業として新聞紙、雑誌、段ボール、ウエス等の集団回収も行っている。受託料は、平成16年度で1億4千万円、平成

成田市資源回収協同組合 大塚 勝彦理事長

◎ おおつか かつひこ 青山学院大学卒、第一物産を経て家業の綿庄商店を継ぐ、平成元年6月成田市資源回収協同組合代表理事就任、平成14年7月千葉県資源リサイクル事業協同組合連合会会長就任現在に至る。本会理事、73歳



成田市資源回収協同組合

所在地 成田市小泉344-1
代表者 大塚 勝彦
組合員数 7名 出資金 700万円
職員数 26名

地域と連携し 循環型社会の一翼を担う

17年度で1億7千8百万円と推移して組合事業収入の大きな柱となっている。

ル、アルミ等の販売価格は好調に推移しているようだ。今後の組合の対応としては、世界に拓くクリーンな市を目指す成田市に協調して成田市リサイクル

組合員は、古紙、繊維類、スチール、アルミ、ビン等の一般廃棄物の回収、販売が主な事業であるが北京五輪に向けた需要支えられ、古紙、スチー

消費生活展、成田市産業まつり等の参加も継続していき、循環型社会の一翼を担うべく、地域住民にもしつかりとアピールしていくこ

とが求められている。

【大塚勝彦理事長の横顔】

このような中で、大塚理事長は、共同事業を通じて組合員の経済的地位の向上をめざすなかで組合員がうるおう組合にしたいと語る。組合の共同施設として2000坪ほどの土地を確保して、ここに資源物の集積場と計量するための台貫、そしてプレスを設置して、組合員が個々では設置が難しい大型施設を構えて、組合員の事業の円滑な推進を図りたいと組合の将来構想をえがく。

理事長は、大学を卒業して、旧財閥系の第一物産に就職、当時の進駐軍の払い下げ鉄くず業務を担当した。その後、家業の綿庄商店を継ぎ、一貫してリサイクル業務に従事してきた。この間、成田祇園祭には欠かさずに参加地域との連携の大切さを実感しているとのことであつた。

